

画家
姚瑞中

姚瑞中が「偽山水」シリーズを始めたのは「年前。瞬く間に話題になり、2012年には英国サーチギャラリーのグループ展にも参加。台湾の現代山水ブームの火付け役ともなった彼が、伝統と現代をどう繋いでいるのかについて語った。



姚瑞中 後花園
2011 インドのハンドメイド紙に
油インク、油彩、金箔 140×100cm

ねじれた山々に囲まれた中央のプールでは、自分自身と妻、そして子どもが水の中で遊ぶ様子が描かれる。呉彬の《歳華紀勝図》を一部参考しているという

明代の呉彬らによる「変形主義」が面白い

——「偽山水」シリーズは、初期から続いているドロージングの延長線上にありますね。始めたきっかけは？

姚 先日の個展でも僕の登山セットと一緒に展示しましたが、山が好きだというのがひとつ。それと、僕の父は、1949年に上海から台北に渡ってきたんですが、牡丹画を描くのを趣味にしていました。父はよく僕に、記念に一枚水墨を描いてくれないかと言っていたんです。でも、現代美術がアンダーグラウンドで芽吹き出していたその頃、僕は水墨なんて古臭いと思っていて、いつも今度今度、と言って先延ばしにしていました。結局そのまま、20歳のときに父が他界してしまっただ。スコットランドにレジデンス滞在していたとき、大自然に囲まれているうちに、その記憶が吹き出して来た。そして自然と描きたくなっただけです。

——好きな山水画について教えてく

「中国美術における正統性というものへの懷疑を表したいと思った。」

下さい。

姚 明末の画家に惹かれます。明末というのは、国が滅びた状態で、それが台湾に似ているからかもしれません。なかでも透視法など西洋に影響を受け始めた時代の、



姚瑞中 鬼斧圖
(臨居節「彷彿真雁山圖卷」)
2013 インドのハンドメイド紙
に油インク、油彩、金箔 131
×91cm Photo Courtesy of TKG+

呉彬らによる「変形主義」が面白いと思うのです。呉彬は福建省出身で、山の形も台湾に似ているんです。一点筆げるとすれば《山水軸》が好きですね。

正統性というものへの懷疑を表したいと思った

——作品中にはいつも小さくご自分や奥さん、お子さんが描かれています。姚 これはある意味「私写真」のようなものです。文人画は高尚すぎるし、

姚 僕の「偽山水」では、硯や毛筆、

素材も、伝統とはかけ離れていますよね。

姚 僕のは、

規則が多すぎる。風

俗画との垣根を取払い、正統性というもののへの懷疑を表したいと思いましたが。余白の美を否定して、金箔を貼るのも、同じ理由からです。過去の中国美術において低く見られ、工芸に属するとされた装飾性を、わざと多用しているんです。また、落款も省いています。正統性に疑問を突きつけるというのは、「反攻大陸」シリーズや「万歳」シリーズなど、僕のほかの作品とも通じるテーマだと思っています。

私の好きな、台北故宫博物院の一品



呉彬 山水軸
明(16~17世紀?)
282.6×57.5cm

細長い画面に、鋭角的に描かれた山々は幻想的で、谷間には家屋も見える。不自然に屈曲した山は、躍動感とグラフィカルな印象を生み出している。

PROFILE



ヤオ・ルイジョン
Yao Jui-Chung

美術家。1969年台北生まれ。97年に台湾代表としてベネツィア・ビエンナーレに参加以降、国際的に活躍。独裁者をテーマにしたビデオから公共施設の廃墟撮影プロジェクトまで、作品のタイプは幅広い。今年はメディア・シティ・ソウルなどに参加予定。

撮影=岩切澤

画仙紙も使いません。紙は特殊な紙を使い、油性・水性の4種類の硬質ペンドと円をずらしながら描く「春蟲吐絲」(絹糸を吐く蚕)という技法(山水画の技法)をあみ出しました。プロジェクトターなどを使つての臨模とは違い、小さな複製画を見ながら、結構好き勝手に描いています。描き終わると、上にテレピン油でコーティングをかけ、滲み効果を出したりします。だいたい1日8~10時間は描いていますね。何

かしてないと落ち着かない性質なんです(笑)。